

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01690

研究課題名（和文）海外留学プログラムの効果検証：大規模パネルデータによる学生の心理特性の変化の分析

研究課題名（英文）Assessment of Study Abroad Programmes - Transformation of Students assessed by BEVI(Beliefs, Events and Values Inventory) test

研究代表者

西谷 元 (Nishitani, Hajime)

広島大学・人間社会科学研究科(社)・名誉教授

研究者番号：80208181

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、当初、海外留学プログラムが、学生に対し、どのような分野でどのような影響を、コンピテンシーレベルでもたらすのか否かを、非参加者グループも対象群としつつ、大規模データに基づき、検証することを目的として開始した。対面留学がCOVID19の影響で全面的に中止され、これらに関するデータを収集が不可能となった。

他方、本研究期間中の増加し、また研究期間の大部分においてこれらだけで行われてきた、COIL/VEを含む多様な海外留学/海外交流プログラムが学生に与えたインパクトを、定量的及び定性的評価手法により明らかにし、研究期間前より収集していた、対面留学との比較研究も同時に実施することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2023年3月、政府は2033年までに、留学生受け入れ40万人、海外派遣50万人目標を表明した。今回の計画においても、アウトプット指標に重点が置かれ、留学の効果の検証またプログラムの質保証についての視点は欠けている。これまでの留学・国際プログラムの効果測定に関する研究は多数存在するが、未だに満足度調査また主観的評価をプログラム終了後に求めるものが大部分である。

本研究では、学生個人、留学プログラムまた非参加者を含む大学全体のレベルでのコンピテンシーの変化を、多様な大学・留学・国際プログラムをフィールドとして、客観的に測定・分析することにより、アウトカム・変容を明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：This research was initially initiated to examine how study abroad programs have an impact on students, at the competency level, based on large data sets. Face-to-face study abroad programs were completely discontinued due to COVID19, making it impossible to collect data on these programs.

On the other hand, we were able to use quantitative and qualitative evaluation methods to determine the impact on students of various study abroad/exchange programs, including COIL/VE, which increased during the study period and have been conducted exclusively during most of the research period. We were also able to conduct a comparative study with face-to-face study abroad programs, which had been collected prior to the research period.

研究分野：高等教育

キーワード：グローバル人材 異文化間教育/国際教育 COIL/VE/ヴァーチャル・エクステンジ 異文化理解 グローバル・コンピテンシー 客観的効果測定 教育的介入 BEVI

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

#### 1. 研究開始当初の背景

政府は、「留学生 30 万人計画」として、平成 32 年を目途に 30 万人の留学生受入れを目指している。また平成 25 年に閣議決定された「日本再興戦略」や「第二期教育振興基本計画」において、平成 32 年までに大学における日本人の海外留学者数を倍増（6 万人から 12 万人）する目標を掲げている。これらの計画において、留学の効果の検証、例えば留学の結果としてどのように学生が変化したのか、またプログラムの質保証をいかに行うのかについての視点は欠けている（若者の海外留学促進実行計画 2014）。

他方、留学・国際プログラムの効果測定に関する研究、また海外留学の成果に関する先行調査は多数存在する（日本学生支援機構 2015、横田 2016）。しかしながら、これらはアンケートによる満足度調査、また学生による主観的評価をプログラム終了後に求めるものであり、特定の学生がどのように変化したのかを客観的に測定したものではない。プログラムの期間等、学生の属性を考慮した分析もあるが、上記の問題から逃れるものでなく、またプログラム内容・学習時間数等を考慮しておらず、学生の変化を十分に可視化できていない。

#### 2. 研究の目的

本研究の目的は、グローバル化今日求められているコンピテンシーまた思考態度を、どのような留学・国際プログラムにより有効に涵養することができるのかを明らかにすることにある。

#### 3. 研究の方法

この「問い」に対して、本研究では、国内外の計 7 大学における多様な留学・国際プログラムを対象とし、留学・国際プログラムが及ぼす変化を客観的に測定し、実証的な研究方法を用いて分析することにより、「解」を導く

客観的測定を行うためのテストとしては、The Beliefs, Events, and Values Inventory (BEVI) を用いた。BEVI は教育、研究、からリーダーシップ・プログラムやメンタル・ヘルスに至るまで、様々な場面で利用することのできる、柔軟性に富んだ、強力な分析ツールであり、これにより、学習・成長・変化のプロセスや成果を理解し、それらを促進させることが可能となった。BEVI は、25 年以上にわたる米国内また国際的な研究と実践、心理学的特性を基盤として開発され、「誰が、何をなぜまたどのような状況で学習したのか」を明らかにすることができる、質的また量的質問双方を含む混合メソッドである。BEVI は、相互に関連する尺度相互間の関係について高度な分析を可能とした。

#### 4. 研究成果

本研究は、当初、海外留学プログラムが、学生に対し、どのような分野でどのような影響を、コンピテンシーレベルでもたらすのか否かを、非参加者グループも対象群としつつ、大規模データに基づき、検証することを目的として開始した。対面留学が COVID19 の影響で

全面的に中止され、これらに関するデータを収集が不可能となった。他方、本研究期間中の増加し、また研究期間の大部分においてこれらだけで行われてきた、COIL/VE を含む多様な海外留学/海外交流プログラムが学生に与えたインパクトを、定量的及び定性的評価手法により明らかにし、研究期間前より収集していた、対面留学との比較研究も同時に実施することができた。

各大学が取り組んできた、COIL/VE を含む多様な海外交流プログラム、学部別データも含め、約 1 万 5 千件のデータを収集した。その結果、尺度 10. 情動調律 ( Emotional Attunement )、尺度 14. Gender Traditionalism、尺度 15. 社会文化的オープン性、尺度 17. Global Resonance について、男女間において、T1 時点で意味のある差異が存在することが、繰り返し証明された。また、尺度 7. Basic Determinism、尺度 8. Socioemotional Convergence、尺度 15. Sociocultural Openness、尺度 17. Global Resonance について、理系学部と文系学部において、T1 時点で意味のある差異が存在することも明らかとなった。

これらをもとに、客観的な変化量とともに、T1 時点における教育的介入手法開発などにも用いることのできる知見を得ることができた。

引き続き、大規模個票データを継続的に収集するとともに、調査に参加する大学を拡大する。他大学の研究も加えた研究会を継続的に実施し、(1)日本人学生全体の平均データ ( 性別など背景情報を含む ) の作成、(2)これらのデータに基づく学部 / 専門分野間の差異の明確化、(3)入学時から卒業までのより長期的な変化の解明、(4)上記データに基づく個別留学・教育プログラムの特徴、効果の解明、(5)異なる成長、変化に適切な教育的介入手法の開発、を行う。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 Blevins Benjamin K., Kawata Keisuke	4. 巻 2019
2. 論文標題 The orphan impact: HIV-AIDS and student test scores from sub-Saharan Africa	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Educational Review	6. 最初と最後の頁 1~24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00131911.2019.1689100	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 北出慶子	4. 巻 31巻3号
2. 論文標題 外国人・留学生支援ボランティア活動を通じた学びと課題 日本語教育人材育成のための多文化サービス・ラーニング開発に向けた系統的レビューの試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館言語文化研究	6. 最初と最後の頁 19-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Akira Arimoto, Tsukasa Daizen, Futao Huang, & Yangson Kim	4. 巻 8
2. 論文標題 Japanese Doctoral Students' Career Plans and Research Productivity: Main Findings from a 2017 National Survey	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Chinese Education	6. 最初と最後の頁 117-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22125868-12340109	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 池田佳子	4. 巻 8
2. 論文標題 外国人留学生のキャリア支援・就職支援のための日本語教育-座学も実践も取り込む「総合的教育プログラム設計」-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 留学交流	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 池田佳子	4. 巻 9
2. 論文標題 『外国人留学生のための就職促進プログラムについて』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 広域連合ニュースレター	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東矢光代・當間千夏	4. 巻 28
2. 論文標題 世界の捉え方にみる学習者の特性とクラス・ダイナミクス : BEVIの結果に基づく分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語文化研究紀要 : Scriptions (琉球大学国際地域創造学部紀要)	6. 最初と最後の頁 23 -45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西谷 元	4. 巻 596
2. 論文標題 広島大学における英語教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 I D E 現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 24-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西谷 元	4. 巻 108
2. 論文標題 Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Research Outreach	6. 最初と最後の頁 66-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西谷 元	4. 巻 January 2020
2. 論文標題 English education reform-based on EBPM	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Open Access Government	6. 最初と最後の頁 258-260
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 西谷 元	4. 巻 155
2. 論文標題 BEVI を用いた留学効果の客観的測定 - 客観的データに基づく留学プログラムの質保証 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高等教育研究叢書	6. 最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西谷 元	4. 巻 155
2. 論文標題 EBPM に基づく学生の英語運用能力の向上 - エビデンスに基づく教育プログラムの改革・実施・成果 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高等教育研究叢書	6. 最初と最後の頁 53-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 東矢光代	4. 巻 2022年度版
2. 論文標題 言語習得論科目におけるオンラインでのグループディスカッション：ハイラブル活用のふり返りを中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 言語学習と教育言語学	6. 最初と最後の頁 33-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計38件（うち招待講演 22件 / うち国際学会 25件）

1. 発表者名 北出慶子
2. 発表標題 多言語・多文化越境経験とライフキャリア 海外留学・就職活動経験についての語りとその意味付け
3. 学会等名 TEAと日本語教育研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北出 慶子、香川 秀太、山口 洋典、義永 美央子
2. 発表標題 越境による「第三の知」創造を目指した実践 交差と衝突による変容から言語文化教育の展望を考える
3. 学会等名 言語文化教育研究学会 第6回年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中井好男・北出慶子・大河内瞳・平野莉江子
2. 発表標題 成長し続ける教師のための省察的实践と未来展望の創造 持続可能性のある教師コミュニティへ
3. 学会等名 言語文化教育研究学会 第6回年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山口洋典・北出慶子・遠山千佳・村山かなえ
2. 発表標題 多文化理解を促すための中道的言語文化と表現の可能性 Story Circlesを通じた対話的理解の省察的实践
3. 学会等名 国際ボランティア学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北出慶子
2. 発表標題 日本教師教育のためのサービス・ラーニング科目開発 言語教師教育と市民性教育
3. 学会等名 第4回日本サービス・ラーニング・ネットワーク全国フォーラム(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keiko Kitade
2. 発表標題 Reconceptualizing language education from the perspective of learners' life transitions through the study of transnational students
3. 学会等名 International Society for Language Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tsukasa Daizen
2. 発表標題 Overseas foreign students: Global trend, underlying factors and policy implication
3. 学会等名 HIGHER EDUCATION RESEARCH ASSOCIATION (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大膳 司
2. 発表標題 海外留学の効果 語学能力への効果を中心として
3. 学会等名 グローバル人材育成教育学会中国・四国支部大会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 池田佳子・古川智樹・岡村アルベルト
2. 発表標題 産学連携で進める新たな国内外人雇用のための日本語教育
3. 学会等名 留学生教育学会 第24回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田佳子・古川智樹
2. 発表標題 産学連携で進める新たな国内外人雇用のための日本語教育
3. 学会等名 産学連携で進める新たな国内外人雇用のための日本語教育勉強会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 IKEDA, Keiko
2. 発表標題 Innovative Tools and Technologies
3. 学会等名 3rd International Conference on Building Strategic Partnerships towards Collaborative International Learning, Mubai, India (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田佳子
2. 発表標題 関西大学における効果測定手法の報告
3. 学会等名 海外留学の客観的効果測定国際シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 IKEDA, Keiko
2. 発表標題 Institutionalising Virtual Exchange in Asia Pacific
3. 学会等名 Borderless Mobility between the European Higher Education Area and Regions Beyond Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東矢光代
2. 発表標題 英語学習・国際交流に積極的な学生のプロフィールを探る
3. 学会等名 国際シンポジウム「海外留学の客観的效果測定」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西谷 元
2. 発表標題 Understanding Students' Transformational Learning based upon BEVI
3. 学会等名 RIHED.SEAMEO GMS-UC, Hanoi, Vietnam (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西谷 元
2. 発表標題 Understanding Students' Transformational Learning through a Psychological Inventory Tool
3. 学会等名 International Virtual Exchange Conference, Seattle, USA (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西谷 元
2. 発表標題 To Transform Higher Education, We Must Transform our Understanding of Who We Are
3. 学会等名 International Association of Universities, Puebla Mexico (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西谷 元
2. 発表標題 Evaluating High Impact Learning International Summer Schools
3. 学会等名 QS Apple (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西谷 元
2. 発表標題 Assessing International, Multicultural, and Transformative Learning: Guiding Principles and Best Practices
3. 学会等名 International Seminar on Student Mobility and Learning Outcomes Measures 台湾国立政治大学 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東矢光代・名護麻美
2. 発表標題 オンラインによる太平洋島嶼地域SDGs短期受入プログラムの試み～日本人チューター学生の学びを中心に～
3. 学会等名 日本英語教育学会・日本教育言語学会第51回年次研究集会 (JELES-51: 2021)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 東矢光代
2. 発表標題 言語習得論科目におけるオンラインでのグループディスカッション：ハイラブル活用のふり返りを中心に
3. 学会等名 日本英語教育学会・日本教育言語学会第53回年次研究集会 (JELES-53: 2023)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 東矢光代
2. 発表標題 BEVIによる英語専門科目クラスのプロファイリング
3. 学会等名 SII EJ2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 MacLean, G.R., Toya, M., Nago, A., & Tan, S.
2. 発表標題 Insights Derived from Two Multinational COIL Exchange Contexts.
3. 学会等名 International Virtual Exchange Conference (IVEC) 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yonezawa, S. & Toya, M.
2. 発表標題 Virtual exchange experience: International collaboration for language learning during the pandemic
3. 学会等名 CASTEL/J 2021 (日本語教育支援システム研究会第9回国際大会) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西谷 元
2. 発表標題 BEVI-jを用いた留学・学習効果の測定 - 留学プログラムの質保証・PDCA -
3. 学会等名 SIIEJ2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hajime Nishitani, Craig N. Shealy
2. 発表標題 Assessing Student Learning through COIL
3. 学会等名 U.S.-Japan COIL Initiative, American Council on Education, Washington DC, USA (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hajime Nishitani, Craig N. Shealey
2. 発表標題 Understanding Students' Transformational Learning through Virtual Exchange
3. 学会等名 BEVI ACE Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西谷 元
2. 発表標題 BEVI-jを用いた留学・学習効果の測定 - 留学プログラムの質保証・PDCA -
3. 学会等名 アメリカ短期語学研修情報フォーラム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Craig N. Shealy, Keiko Ikeda, Hajime Nishitani,
2. 発表標題 IVEC BEVI COIL Research Project: Understanding Students' Transformational Learning through a Psychological Inventory Tool
3. 学会等名 International Virtual Exchange Conference (IVEC) 2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Craig N. Shealy, Keiko Ikeda, Hajime Nishitani, Don Bysouth
2. 発表標題 The COIL BEVI Project: Evaluating the Impact of Virtual Exchange through Research and Practice
3. 学会等名 International Virtual Exchange Conference (IVEC) 2020 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西谷 元
2. 発表標題 留学効果の客観的測定とその応用
3. 学会等名 SII EIJ2020 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西谷 元
2. 発表標題 留学/VE/COILのアウトカムの客観的測定
3. 学会等名 SII EIJ2021 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西谷 元
2. 発表標題 国際教育（留学/VE/COIL）の社会的責任 = アウトカムの実現・証明ー学生に変化をもたらすことができるか
3. 学会等名 SII EJ2022（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西谷 元
2. 発表標題 客観的測定の結果の活用（PDCA、事前・事後プログラムにおける教育的介入等）
3. 学会等名 SII EJ2021（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西谷 元、東矢光代、池田佳子
2. 発表標題 客観的測定の結果の活用：グッドプラクティスの紹介
3. 学会等名 SII EJ2022（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hajime Nishitani, Katie Orr
2. 発表標題 Measuring the Impact of Learning Mobility Programmes on Employability
3. 学会等名 APAIE2022（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 John Dirkx, Keiko Ikeda, Hajime Nishitani, Craig N. Shealy
2. 発表標題 COIL BEVI Project: Cultivating Globally Sustainable Selves Through Values-Based Assessment
3. 学会等名 APAIE2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Keiko Ikeda, Hajime Nishitani, Craig N. Shealy, John Style
2. 発表標題 Applied Global Studies: Connecting International Students Through a Virtual Bridge
3. 学会等名 APAIE2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 池田佳子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 関西大学出版	5. 総ページ数 120
3. 書名 大学教育の国際化への対応	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	東矢 光代  (Toya Mitsuyo)  (00295289)	琉球大学・国際地域創造学部・教授    (18001)	



6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金子 慎治 (Kaneko Shinji) (00346529)	広島大学・人間社会科学研究科(国)・教授  (15401)	
研究分担者	川田 恵介 (Kawata Keisuke) (40622345)	東京大学・社会科学研究所・准教授  (12601)	
研究分担者	大膳 司 (Daizen Tsukasa) (60188464)	広島大学・高等教育研究開発センター・教授  (15401)	
研究分担者	北出 慶子 (Kitade Keiko) (60368008)	立命館大学・文学部・教授  (34315)	
研究分担者	池田 佳子 (Ikeda Keiko) (90447847)	関西大学・国際部・教授  (34416)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 国際シンポジウム「海外留学の客観的効果測定」	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 SIIEJ	開催年 2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関